

(4) 手術が施行された患者における肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

分子: 分母のうち、肺血栓塞栓症予防管理料（弾性ストッキングまたは間歇的空気圧迫装置を用いた計画的な医学管理）が算定されている、あるいは抗凝固薬（低分子量ヘパリン、低用量未分画ヘパリン、合成Xa阻害剤、用量調節ワルファリン）が処方された患者数

分母: 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数（リスクレベルが「中」以上の手術は『肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）の予防ガイドライン』に準じて抽出）ただし、15歳未満は除外。

収集期間：平成23年7月～平成23年12月

肺血栓塞栓症は、主に下肢の深部静脈にできた血栓（深部静脈血栓症）が血流によって運ばれ、肺動脈に閉塞を起こしてしまうもので、手術後の安静臥位がそのリスクになると考えられています。肺血栓塞栓症は、血栓の大きさや血流の障害の程度によって軽症から重症までその程度はさまざまですが、時に肺血流が途絶えて肺機能が低下し、死に至ることもあります。

多くの研究が行われた結果、肺血栓塞栓症のリスク要因が明らかになってきており、近年では危険レベルに応じて適切な対策が取られるようになってきました。具体的なものとしては、弾性ストッキングの着用、間歇的空気圧迫装置の利用、抗凝固薬などの薬物的予防などが「肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドライン」に基づいて行われています。

指標 6：手術が施行された患者における肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

医療機関コード	医療機関名	母数	分子	割合
060113656	済生会山形済生病院	1030	883	85.7%
080110205	水戸済生会総合病院	632	563	89.1%
096210115	済生会宇都宮病院	1344	1131	84.2%
100110144	済生会前橋病院	254	249	98.0%
110201350	済生会川口総合病院	752	725	96.4%
111101922	済生会栗橋病院	152	145	95.4%
120210971	済生会習志野病院	589	579	98.3%
130314757	済生会中央病院	660	559	84.7%
140105122	済生会横浜市東部病院	1172	884	75.4%
143103439	済生会横浜市南部病院	737	692	93.9%
150120734	済生会新潟第二病院	753	660	87.6%
160115667	済生会富山病院	306	271	88.6%
160212605	済生会高岡病院	353	331	93.8%
170117068	済生会金沢病院	256	232	90.6%
180118909	福井県済生会病院	895	839	93.7%
224160042	静岡済生会総合病院	671	600	89.4%
240705053	済生会松阪総合病院	558	495	88.7%
251200194	済生会滋賀県病院	689	669	97.1%
269700129	済生会京都府病院	269	229	85.1%
271607149	済生会千里病院	739	705	95.4%
272701586	済生会泉尾病院	86	82	95.3%
274205628	済生会茨木病院	240	111	46.3%
274900723	済生会富田林病院	188	182	96.8%
279600070	済生会中津病院	651	633	97.2%
279600120	済生会野江病院	634	547	86.3%
279600153	済生会吹田病院	696	693	99.6%
285001538	済生会兵庫県病院	332	320	96.4%
290102017	済生会奈良病院	113	101	89.4%
290401062	済生会中和病院	237	215	90.7%
338800012	岡山済生会総合病院	933	910	97.5%
343111190	済生会広島病院	189	176	93.1%
350116357	済生会下関総合病院	757	666	88.0%
350310141	済生会山口総合病院	426	314	73.7%
401119189	済生会福岡総合病院	903	825	91.4%
401719020	済生会二日市病院	255	245	96.1%
406619050	済生会八幡総合病院	440	354	80.5%
438211911	済生会熊本病院	982	832	84.7%
	合計	20873	18647	89.3%